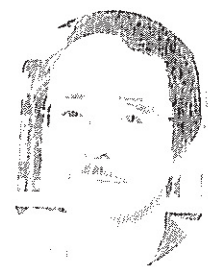


# 日 中 文 化 交 流

日本中国文化交流協会編集

No. 761 2009. 11. 1



## 中国の環境

### アセスメント

東京工業大学教授  
IAIA理事・会長職

原 科 幸 彦

9月22日の国連気候変動サミット開会式で、鳩山由紀夫首相は2020年までに温室効果ガスを1990年比で25%削減すると述べ、世界中から賞賛された。ただし、そのためには米国や中国など主要な温室効果ガス排出国の参加を前提としている。オバマ大統領は明確な意思表示をしながら、温家宝首相は前向きな発言をした。中国のこの姿勢は日中友好の上でも評価できる。

中国の環境政策は遅れていると見られるが、そうだろうか。例えば、環境アセスメント制度の法制化は2003年だが、経済の発展段階を考えれば、これは必ずしも遅くはない。日本は高度経済成長を終え四半世紀近くも経た1997年によりやく法制化した。随分と遅い。当時のOECD加盟国、29カ国中の最後であった。しかも、あまり積極的に

アセスを行ってきたとはいえない。

環境影響評価法(アセス法)は施行後10年を目途に見直す規定されており、そのために環境省は昨年6月、環境影響評価制度総合研究会を設け、今年7月まで10回の会議を開き検討を行ってきた。筆者も委員を務め、社会工学の立場からアセスの理念と是何かを論じ、国際的な情報の提供も積極的に行ってきた。しかし、この研究会にはNGOや住民代表はおらず、産業界関係者の比率が高いという偏った委員構成だった。そして、研究会の報告書は両論併記のままである。環境省の研究会なのに環境配慮のための明確な方向性を打ち出さないとは、いかにも消極的だ。

中国ではどうか。2009年5月17-22日にガーナのアクラで、環境アセスメント分野の中心的な国際学会である、International Association for

Impact Assessment (IAIA) の第29回世界大会が開かれた。筆者は日本人初の会長として大会に臨んだが、我が国の立ち遅れを痛感させられた。今回は中国からも多くの参加があり、中国では年間3万件前後のアセスが行われていることが報告された。アメリカでも連邦政府のアセスだけでなく、年間で3万〜5万件が実施されている。だが、日本のアセス法のもとでは年間20件しかなく、地方自治体の条例アセスを加えても70件程度である。彼我の差は著しい。

これは大規模事業しか対象にしないという日本の仕組みに問題がある。持続可能な社会づくりにはアセス制度の整備が不可欠だが、あまりにアセス実施例が少ないとアセスの理念と方法はなかなか社会で理解されない。中国では欧米諸国と同様、小規模事業でもアセス対象とし環境配慮を進める。中国のアセス自体は後発であり、情報公開や参加の問題などさらに改善すべき点はあるようだが、環境問題に取り組む中国政府の意気込みが感じられる。中国では日本の400倍以上ものアセスが行われているという事実、我々は学ぶべきである。日中それぞれの良い点を学

(次ページ4段目へつづく)

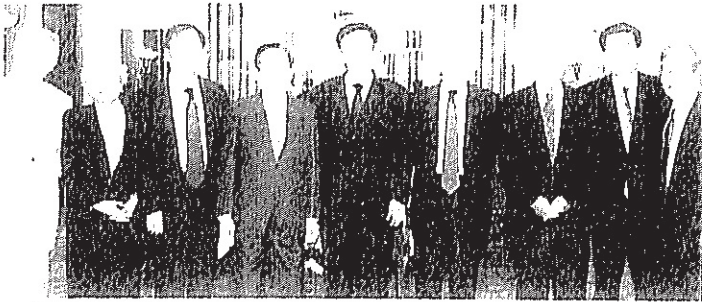
# 中華人民共和国建国60周年

## 辻井喬会長ら協会代表団

### 祝賀行事に出席



建国60周年祝賀式典で車上からあいさつする胡錦濤国家主席 — 10月1日



中国人民対外友好協会の陳昊蘇会長(右5)、井頓泉副会長(右2)、許金平副会長(左3)、劉子敬理事(左1)の歓迎を受ける辻井喬会長(左4)、黒井千次理事長(右4)、篠田正浩代表理事(右3)、佐藤純子代表理事(左2)、横川健専務理事(右1) — 9月28日 北京

中華人民共和国建国60周年を慶祝するため、日中文化交流協会代表団(辻井喬会長、黒井千次理事長、篠田正浩、佐藤純子代表理事、横川健専務理事)

が中国人民対外友好協会の招きにより、9月28日から10月4日まで訪中した。

### 天安門広場で祝賀式典盛大に

10月1日午前、天安門広場で建国60周年祝賀式典が盛大に催され、20万の軍民が参加して閱兵式と大衆パレードが行なわれた。篠田正浩代表理事、横川健専務理事が天安門広場の特設スタンドから式典を見守った。胡錦濤国家主席が閱兵後、天安門楼上で演説を行ない、その中で「いま、近代に向かい、世界に向かい、未来に向かう社会主義中国は、世界の東方に毅然と立っている」「民族の独立と人民の解放、国家の富強と人民の幸福のために不朽の功績を建てた革命の先輩と烈士らを心から偲びたい」と述べた。

### 人民大会堂で祝賀レセプション

9月30日の夜、人民大会堂で国務院主催のレセプションが開かれ、中国内外から4000名が一堂に会し、建国60周年を祝った。温家宝総理はあいさつの中で「中国の特色ある社会主義がなければ、今日の中国の繁栄と進歩はなかった」「国家の安定、民族の団結、社会の調和は諸事業の健全な発展の保証である」と述べた。レセプションには辻井喬会長、黒井千次理事長が出席

俞ペーシよりつづく

世界人口は60億人を超えさらに増大しているが、持続可能な社会をつくるためには人間活動の管理が不可欠である。その基本は人口問題であり、中国は一人っ子政策を導入しその解決に取り組んできた。あるべき将来像に照らし、事前に人間活動を管理するのがアセスメントである。持続可能性のアセスメントを通じて、世界各国の人々が互いに協調して行くことが強く求められる。

へらしな・さちひこ

### 陳昊蘇対外協会会長が歓迎宴

辻井喬会長ら一行は、9月28日、陳昊蘇中国人民対外友好協会会長主宰の歓迎夕食会に出席した。井頓泉副会長、中日友好協会の許金平副会長、閔立彤副秘書長、劉子敬理事、閔浦友好交流部部长、劉夢妍氏、李現氏、中国テレビドラマ制作センターの張子揚副主任が同席。

### 蔡武文化部部长を訪問

一行は9月29日午後、中国文化部に蔡武部長を訪ね懇談した。対外文化連絡局の董俊新局長、石軍アジア処処長、